

Title	事例研究：西武ライオンズ球団の経営
Sub Title	
Author	国井正人(Kunii, Masato) 伏見多美雄
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1983
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1983年度経営学 第264号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001983-0264

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名 国井正人

主査 伏見多美雄

副査 柳原一夫

所属ゼミナール 伏見多美雄 研

柴田典男

事例研究・西武ライオンズ球団の経営

本研究の目的は西武ライオンズの球団経営の全体像を解明し、その成功しつつある要因を明らかにすることであり、それを通じて新しい球団経営のあり方を提示することである。

論文の構成は 1.西武ライオンズ球団のケース 2.プロ野球球団の経営に関するノート 3.分析の計3部より成っている。

第1部のケースでは、西武グループの概要、西武ライオンズ誕生の経緯、マネジメント方式、これまでの経営実績などが盛り込まれている。

第2部のノートでは、西武ライオンズ球団の経営のユニーク性を浮き上がらせるために、他球団の経営のやり方について紹介している。特に読売巨人軍と阪急ブレーブスを取り上げ、比較検討に役立つ資料を提供している。

第3部の分析は、従来のプロ球団の経営と西武ライオンズ球団の経営とを対比する形で進めている。従来のプロ球団の経営では、プロ野球の産業としての一般的特性を取り上げ、これを踏まえた形で親会社とプロ球団の関係が規定されて来たことが明らかにされている。これを受けて、かかる関係がファン層を限定し、プロ野球と代替関係にあるサービスに対する配慮の欠如となって現われ、プロ球団間の競争が同質的人材競争となった事情が解明されている。

西武ライオンズ球団の経営では、まず従来のプロ球団と親会社の関係を批判的に検討し、西武が野球をビジネスとして展開するという基本方針を確立し、これまで未充足であったファン層に市場ターゲットを絞った理由を究明している。そしてこれを実現するために新規参入球団として、球場を重視し、イメージ形成を行い、チームづくりを行ったことが明らかにされている。

西武ライオンズ球団は、巨人軍を頂点とした従来のプロ野球関係者に対して、球場と自主的イメージ形成の重要性を認識させ、それがマスメディア以外によってもある水準までは可能であることを提示したのである。